まちづくりNews

第1分科会　vol.1
平成26年6月24日
（発行元）
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
旭川市1条通8丁目　フィール旭川7階
TEL/FAX 26-0338
（委託者）旭川市総合政策部総合計画課

第１分科会での議論がスタート！

平成２６年６月１０日（火）に，旭川市まちなか市民プラザ会議室において，第１回旭川市総合計画市民検討会議第１分科会が開催されました。

平成２８年度からの新たな総合計画の策定に向けた検討を行うために設置されたこの検討会議において、第１分科会は主に福祉・子育てに加えて、医療や健康づくりなど、保健・医療・福祉・地域について、将来、旭川市が目指すまちの姿やその実現のための具体的方策について検討を行います。この第１分科会は公募委員２名，団体推薦委員７名，学識経験者２名の計１１名で構成されています。

分科会の冒頭では，栗田座長の進行により，分科会委員・オブザーバーとして参加している職員ワーキンググループ・アシスタントの学生スタッフのうち、７名による２分間スピーチを行いました。このスピーチでは、参加者の旭川のまちづくりに対する考え、この分科会の抱負など、それぞれの思いを共有することができました。

その後、３グループに分けて，「あさひかわの『福祉』『子育て』総点検」と題し、本市の福祉・子育て、さらに医療・健康づくり分野の「よいところ」と「課題と感じるところ」について，意見交換を行い，グループごとに発表しました。

熱気があふれる2時間の議論が交わされ、委員の皆さんからは「あっという間の2時間だった」「メンバーの旭川に対する熱い思いを聴くことができてよかった」との声が聞かれました。

各グループの主な意見は次のとおりです。

（Ａグループ）

Ａグループでは、子育て支援に関する意見が多く出されました。現代の子どもたちは勉強や習い事などに多忙で、遊び場は危険防止で禁止事項が多くなりがちです。自ら事故防止ができ、のびのびと遊べる、交流できる、成長できる環境づくりが必要です。大人が子どもたちをどのように見守るか、生活の知恵をどのように伝えていけるかを考え、地域で子どもたちを育てていく文化を醸成したいものだと思います。

（Ｂグループ）

Ｂグループでは、旭川市の特徴として福祉サービスが多く、選択できるという良い点と、だからこそサービスの専門分化や縦割りを懸念するという声がありました。有機的な連携ができる体制づくりが求められています。また、高齢者の健康を考える意識は高まっていますが、次世代を担う子どもや若者が基本的な生活習慣を振り返るなど、幅広い年代の人々の健康意識の向上を考えていくことが生涯を通じた健康づくりにつながっていくと思います。

（Ｃグループ）

Ｃグループでは、まず、「福祉の根本は命を守ること」との声があがりました。サービスに当てはめるだけでなく、気づいた人が助けることが福祉なのではないか。マニュアルだけに頼らず、自ら判断して動くことができる人材を育てたり、温かみのある関係の持てる人づくりが必要です。障がいを持つ人にとって、施設の充実はよい点でもありますが、障害者と健常者の線引きになってしまわないよう問題提起がなされました。

委員の皆さんから、旭川がよりよいまちへと発展していけるよう込められた期待も語られ、今後の提言につなげていければと思います。